

オープンバッジ2.0から3.0へ

2025年11月26日

一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク
常務理事／事務局長
吉田 俊明



自己紹介: 吉田 俊明 (よしだ としあき) 2025年11月現在



<主な現職>

一般財団法人 オープンバッジ・ネットワーク	常務理事／事務局長
株式会社 ネットラーニングホールディングス	取締役副社長
公益財団法人 日本数学検定協会	理事(非常勤)
特定非営利活動法人 実務能力認定機構	理事(非常勤)
一般財団法人 高度人材育成機構	評議員(TIX: Tokyo Institute of Expertise 設立団体)

- 2018~2020年 **UWC ISAK** Member of Council。学校と保護者をつなぐ役割を担当
- 2000年~ 株式会社**ネットラーニング** 組織人材育成のためのLMSや各種講座開発など多数のプロジェクトを遂行
- 1994年~2000年 **Merrill Lynch** (米投資銀行) 各種の証券業務や資産運用業務に従事
- 1994年 **慶應義塾大学** 工学部応用化学科 卒業
- 1990年 愛知県立**千種高校** 卒業

当財団の概要



一般財団法人

オープンバッジ・ネットワーク

一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク

「学歴」から
「学習歴」へ!

2019年11月1日 設立

ミッション

公共性：財団法人としてオープンバッジの普及推進を行う

質保証：会員審査制度によるバッジ発行団体の適格性確保

利便性：かんたんに利用できるクラウドサービスの提供



役員

代表理事	会長	白井 克彦
代表理事	理事長	岸田 徹
常務理事	事務局長	吉田 俊明
理事		山田 恒夫
理事		石原 昇
理事		岩本 隆
理事		井上 雅裕

理事

深澤 良彰
阪井 和男
下川 和男
川口 泰司
李 在範
岸田 努

会員数 373団体 (2025年10月31日現在)



属性別団体数(普通会員のみ)

会員団体(抜粋、順不同)

学校

153団体

北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京理科大学、早稲田大学、慶応義塾大学、中央大学、名古屋大学、金沢大学、和歌山大学、神戸大学、同志社大学、関西大学、関西学院大学、愛媛大学、九州大学、九州工業大学、サイバー大学ほか

一般企業

117団体

旭化成、エヌ・ティ・ティ・データ先端技術、花王、東海旅客鉄道、サーティファイ、サザビーリーグ、中外製薬、デンソー、東レ、トヨタ自動車、日本新薬、日本製鉄、日本電気、富士通Japan、リソナホールディングス、ローソンほか

財団・社団ほか

73団体

日本漢字能力検定協会、医薬品医療機器総合機構、国際ビジネスコミュニケーション協会、大学生協事業連合、東京商工会議所、統計質保証推進協会、日本健康生活推進協会、日本数学検定協会、日本ディープレニング協会、日本能率協会、日本マーケティング協会ほか

官公庁・自治体

8団体

デジタル庁、東京都デジタルサービス局、茨城県、野々市市、延岡市、広島県生涯学習センター、静岡市、藤枝市

会員一覧

<https://www.openbadge.or.jp/partners/>



オープンバッジの特長



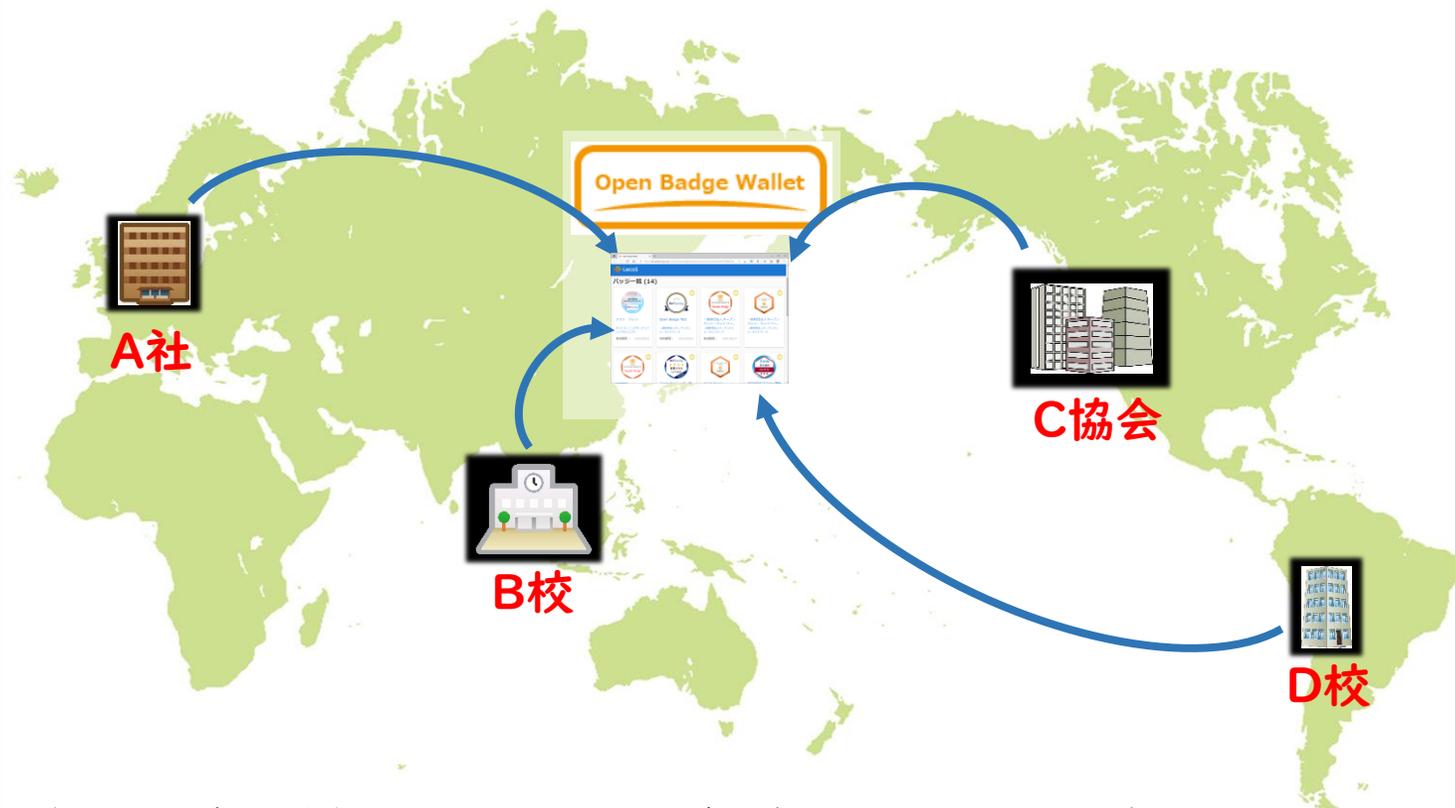
- ◆ 人にも、コンピュータにもわかりやすい
- ◆ 国際的な**技術標準規格で発行**されるデジタル証明/認証
- ◆ 暗号技術を組み込み**偽造・改ざんを防止**

“オープン”国際標準規格準拠であること



1EDTECH
CERTIFIED

当財団のオープンバッジサービスは、1EdTech (ワン・エドテック) が規定する **Open Badge v2.0/v3.0** において **すべての項目 (発行/表示/保管) の適合性認証** を受けており、日本だけでなく世界中で発行されたオープンバッジの相互運用性が担保されています。



また、地域的な相互運用性だけではなく、あらゆる発行団体からの証明書についても、**同規格準拠であれば相互運用可能**となっています。

受領者にとって**一元管理が容易にできる**ことが、多様な学習歴の利活用において重要な要素となります。

※受領者自身が外部のウォレットにバッジを持ち出すことも可能です。

ウォレットで一元管理できる

当財団会員が発行するバッジを集めている例

The screenshot shows the LecoS wallet interface with 13 public badges. The badges are arranged in a grid and include the following information:

- Badge 1:** Tohoku University MOOC "Dark Side of Modern Learning" (発行日: 2024/03/26)
- Badge 2:** Tohoku University MOOC "Introduction to Human Brain Science" (発行日: 2023/10/31)
- Badge 3:** JSSC Statistical Proficiency Level 2 (発行日: 2023/08/04)
- Badge 4:** Tohoku University MOOC "Pain and Neurology" (発行日: 2022/10/26)
- Badge 5:** "Starting" Inflation Maintenance Lecture (発行日: 2022/09/28)
- Badge 6:** Mechanism of Fossilization - A Follow-up (発行日: 2022/09/28)
- Badge 7:** "Starting" Inflation Maintenance Lecture (発行日: 2022/07/03)
- Badge 8:** Data Science Expert Certification - Literacy (発行日: 2021/11/01)
- Badge 9:** JDLA Deep Learning for GENERATION (発行日: 2021/10/28)
- Badge 10:** Animal Welfare Introduction (A Introduction) (発行日: 2021/03/10)
- Badge 11:** Introduction to Climate Change and Air Pollution (発行日: 2021/02/17)
- Badge 12:** Introduction to Jomon Studies (有効期限切れ) (発行日: 2020/06/29)

当財団会員以外が発行するバッジもインポートしている例

The screenshot shows the LecoS wallet interface with 26 public badges imported from external organizations. The badges are arranged in a grid and include the following information:

- Badge 1:** DX Advancement Passport 1 (発行日: 2024/05/02)
- Badge 2:** AWS Partner: Sales Accredited (発行日: 2024/03/28)
- Badge 3:** AWS Learning: Storage Core (発行日: 2023/02/14)
- Badge 4:** Project Management Fundamentals (発行日: 2023/01/30)
- Badge 5:** Cybersecurity Fundamentals (発行日: 2023/01/29)
- Badge 6:** AWS Learning: File Storage (発行日: 2023/01/27)
- Badge 7:** AWS Partner: Accreditation (Technical) (発行日: 2022/12/27)
- Badge 8:** AWS Partner: Cloud Economics Accredited (発行日: 2022/12/19)
- Badge 9:** AWS Learning: Block Storage (発行日: 2022/10/25)
- Badge 10:** AWS Learning: Object Storage (発行日: 2022/07/30)
- Badge 11:** AWS Certified Database - Specialty (発行日: 2022/07/23)
- Badge 12:** JDLA Deep Learning for GENERATION (発行日: 2022/06/27)

文部科学省 生涯学習でも活用の手引書を発行

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

> サイトマップ > English 文字サイズの変更 小 中 大 検索

会見・報道・お知らせ | 政策・審議会 | 白書・統計・出版物 | 申請・手続き | 文部科学省の紹介

トップ > 教育 > 生涯学習の推進 > 学び直しについて > デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究

デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究

事業実施の背景・概要

文部科学省では、令和5年度実施の「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」において、生涯学習、特に社会教育分野の学習履歴に対するオープンバッジの発行・管理に関する実証を行っています。

中央教育審議会生涯学習分科会における議論では、社会教育人材の量的な拡大と質的向上を進める必要性が示され、特に、社会教育士をネットワーク化すること等による活躍機会の拡大に向けた取組の必要性が示されるとともに、社会教育士が地域で活動しやすくなるよう、社会教育士であることを証する修了証書やデジタルバッジ等の導入を検討することが示されています。

上述の調査研究の成果を基に、容易に他者に提示・送信が可能で、真正性を証明できるデジタル証明の特性を活かしながら、社会教育士をはじめとした一定の学習経験を有する者が、その学習成果を地域活動等の実践につなげていくための組織的・持続的な活動を促すネットワークの構築に関する検討を行っています。



上段：R5調査研究で発行したバッジ画像（一部）

- 事業概要 (PDF:434KB)

オープンバッジの導入と活用に関する手引書

令和5年度の調査研究では、オープンバッジの導入に興味がある方や導入を検討している方向けの手引書を作成しております。各教育機関等々でDXを通じた学習履歴の可視化やネットワークづくりなどに御関心をお持ちでしたら、どうぞご参考にさせていただき前向きにご検討ください。

- オープンバッジの導入と活用(本体) (PDF:4.1MB)
- オープンバッジの導入と活用(概要) (PDF:1.8MB)

生涯学習・社会教育におけるデジタル化の「はじめ」

オープンバッジの導入と活用

令和6年3月

文部科学省

CONTENTS

- オープンバッジとは**
 - オープンバッジが作り出す未来の社会像 P.4
 - オープンバッジの概要 P.2
 - 日本・世界での活用 P.6
- オープンバッジを発行してみよう** P.3
- 発行のプロセス**
 - 発行講座の検討・発行主体の検討と申込み P.8
 - オープンバッジデザイン・作成のポイント P.9
 - メタデータ作成のポイント P.11
 - オープンバッジの作成と発行 P.1
- 受領のプロセスと活用** P.1
- オープンバッジの活用事例**
 - 事例1) 広島県立生涯学習センター P.13
 - 事例2) 藤枝市民大学（藤枝市） P.14
 - 事例3) 九州大学 P.15
 - 事例4) 一般社団法人プレゼンテーション検定協会 P.16
- 最後に**
 - オープンバッジの今後の展開 P.17

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/manabinaoshi/mext_00021.html

https://www.mext.go.jp/content/20240401-mxt_syogai03-000034993_1.pdf

3.0に移行しています!



v2.0

1EdTech Consortium
独自仕様

2018.4~

期待される利活用

- 「修了証」としての利用

仕様上
上位互換
ではない



v3.0

W3Cの
VCモデル採用

2024.5~

期待される利活用

- 改ざん耐性などセキュリティ強化
- 「活用」に向けた機能強化
- 教育以外でも活用



Web3.0

- ブロックチェーン
- DAO
- メタバース
- 分散型
ソーシャルネットワーク
- NFT
- P2Eゲーム
- DeFi



**DIDs (Decentralized Identifiers)
VCs (Verifiable Credentials)**

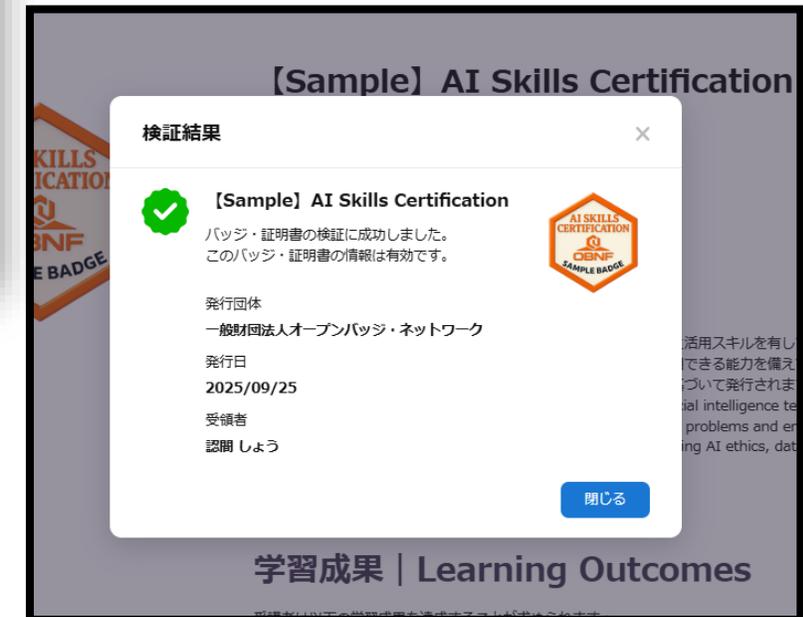
採用側による経歴調査の重要性



「まさか詐称なんて・・・」といった事件が散見されるようになりました。

そうした時代の要請から、経歴書や合格証といった内容の確認義務も問われる社会情勢となっています。

オープンバッジであれば、クリックひとつで簡単に内容の真正性を確認することができます。



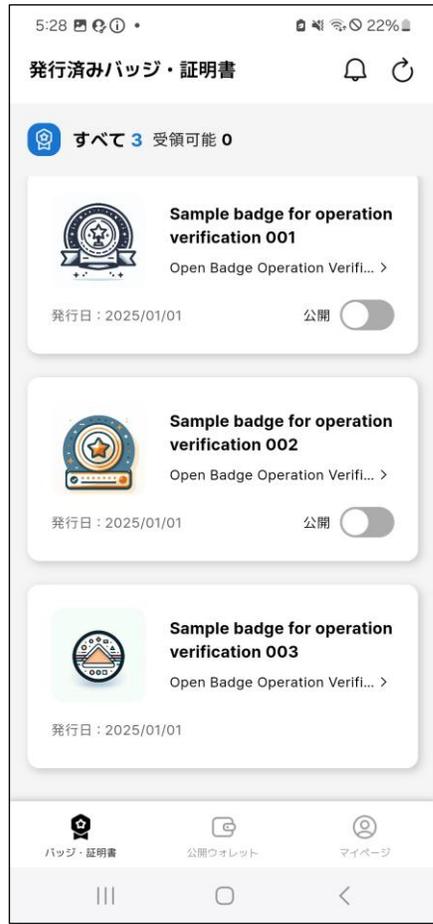
出典：
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOTG187KZ0Y5A910C2000000/>
<https://www.sanyonews.jp/article/1778563?kw=%E3%81%84%E3%81%9F%E3%81%A0>
https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00628/102800020/?n_cid=nbpb_mled_epu

当財団でのウォレットは 2.0/3.0 どちらも表示

The screenshot shows the LecoS Wallet interface with the following details:

- Browser:** LecoS Wallet, wallet.openbadge.net/credential/list
- Header:** LecoS Learn for the Future
- Left Sidebar:** Wallet, バッジ・証明書, バッジ, 公開プロフィール, 設定, ヘルプ
- Main Content:** 発行済みバッジ・証明書 22 受領可能 5
- Badge 1 (v3):** Open Badge Literacy Basic, ネットラーニングHD オープンバッジリテラシー, 株式会社ネットラーニングホールディングス, 発行日: 2025/01/01, 公開: ON
- Badge 2 (v2):** TiX 修了証, ビジネスパーソンのためのデータ解釈研修, 一般財団法人高度人材育成機構 Tokyo o iX, 発行日: 2024/10/09, 公開: ON
- Badge 3 (v2):** DIGITAL INNOVATION COURSE OBNF, 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク サンプ..., 一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク, 発行日: 2024/07/23, 公開: ON
- Badge 4 (v2):** デジタル庁 Digital Agency デジタル推進委員, デジタル推進委員, デジタル庁, 発行日: 2023/10/16, 公開: ON

当財団ではモバイルにも対応!



全学生がウォレットを持つ時代に!



2要素認証にも対応開始!



Campus Life

活用が広がっています!

- 全学での導入
- 初学年度の全学生にバッジ授与
- リカレント教育などの社会人学生へのバッジ授与
- マイクロレデンシヤルへの適用
- 他校連携・国際連携でのバッジ授与
- 学部ごとの運用（事務方の負荷分散）
- APIによる自動化での多種・多数発行

マイクロクレデンシャル (MC) – 世界の潮流

グローバル・トレンドとして、MCの発行が進んでいます。

University World News

THE GLOBAL WINDOW ON HIGHER EDUCATION

Global Africa Asia SDGs Edtech/AI Commentary InDepth HEJobs Partnerships Search About

Micro-credentials

GLOBAL

Micro-credentials: Shaping higher education around the world

Micro-credentials are impacting upon universities around the world. Offering flexible skills-focused short learning, they are increasingly popular among higher education students, professional learners and employers. *University World News* explores how micro-credentials are driving changes to learning, qualifications and collaboration with industry.



EUROPE

EU pushes micro-credentials but recognition lags behind

Liz Newmark



While the European Union and its associated institutions are supporting the development and acceptance of micro-credentials across Europe, experts say there is significant work ahead to ensure these qualifications are recognised across jurisdictions.

GLOBAL

Enhancing the learning ecosystem with micro-credentials

Patrick Blessinger

GLOBAL

Recognition of credentials – The next big challenge

Karen MacGregor



Tens of thousands of micro-credentials are now offered worldwide, and this 'Wild West' of post-school learning urgently needs quality assurance. Recognition of micro-credentials is the new frontier – essential to ensuring their legitimacy and value for employers and learners.

ASIA

Traditional HE opens up to the micro-credential revolution

Kalinga Seneviratne

MCによる高等教育の価値向上

Advancing the value of higher education with micro-credentials

Explore how campuses worldwide are rapidly adopting micro-credentials and shaping the future of learning.

51%

of campus leaders say their institutions are integrating micro-credentials

キャンパス・リーダーの51%がMCを導入していると回答

53%

offering micro-credentials provide credit options; 82% intend to do so within 5 years

53%が単位の選択肢としてMCを提供しており、82%が5年以内にそうする予定と回答

72%

aim to grow their programs, reaching more students or adding more micro-credentials

72%がプログラムの拡大、学生増、MCのさらなる追加を目指していると回答

出典：米Coursera社のレポートより

<https://www.coursera.org/enterprise/resources/ebooks/micro-credentials-report-2024>

出典：https://www.universityworldnews.com/page.php?page=Microcredentials_Special_Report

マイクロクレデンシャル – 潮流の背景

労働市場と要求スキルの変化

グローバルな雇用市場では、従来の学位よりも「即戦力スキル」へのニーズが高まっており、企業は特定のスキルや資格も評価し始めている。とくに、デジタルやAI分野では、スキルの陳腐化が早く、継続的なアップスキリング・リスキリングが不可欠になっている。

学習者の多様化と学習柔軟性への対応

社会人学習者や転職希望者が増え、フルタイム学位取得が難しい層に対して、短期間で取得可能なマイクロクレデンシャルが魅力的となっている。オンライン学習やハイブリッド形式の普及により、時間・場所の制約が少ない学習パスが提供されはじめている。

国際的な認証・標準化の動き

欧州やオーストラリアなどでは、マイクロクレデンシャルの標準化に向けた政策が進んでおり、大学は国際競争力を維持するために対応を迫られている。UNESCOやOECDも、マイクロクレデンシャルを生涯学習の重要な要素として位置づけている。

大学の収益モデルの多様化

学位課程だけでは収益が安定しない中、短期プログラムやマイクロクレデンシャルは新たな収益源となる。とくに企業との連携によるカスタマイズ型プログラムは、大学にとって魅力的なビジネスモデルとなる。

デジタル証明技術の進化

デジタル暗号やオープンバッジなどの技術により、学習成果を安全かつ簡単に共有できるようになり、雇用者側の信頼性も向上している。

※当財団まとめ

日本でも、一般社団法人日本マイクロクレデンシャル機構が設立されました。(2025年10月23日)



活動ニュース

【開催報告】一般社団法人日本マイクロクレデンシャル機構設立準備委員会

2025年7月9日

マイクロクレデンシャルのデジタル証明をデジタルバッジで発行するためのガイドライン

2025年5月27日

出典: <https://micro-credential-jwg.org/>

サイバー大学 高大連携で高校生に無償提供開始

サイバー大学では、2025年2月12日に、福岡市立福翔高等学校、博多工業高等学校、福岡女子高等学校、福岡西陵高等学校と高大連携の包括協定を締結し、2025年度春学期より、同大学の正規オンライン授業科目を4校の生徒に無償で提供開始します。



日本では、理工系分野に進学する学生が欧米に比べて少ないことが指摘されており、長期的な技術革新の停滞やそれにともなうグローバル競争力の低下等が懸念されます。こうした背景を基に、高校生が同大学の科目等履修生として、大学レベルの教育に早期に触れる機会を提供し、理工系分野への興味を喚起することをめざしています。

本科目を履修し合格した高校生には、単位の授与とともに、身に付けた知識とスキルをデジタル証明するためのオープンバッジが発行されます。

- 単位認定** 科目等履修生としての単位授与。
- オープンバッジ** デジタル形式のスキル証明書。取得により進学先に能力を効果的にアピールできる。

米国IBMにおける年間採用の15%が「ニューカラー」と呼ばれるルートからの採用

従来の4年生大学の学位は必要とせず、サイバーセキュリティやクラウドコンピューティング、データサイエンスなどの分野での採用となっている。



Search



IBM Training and Skills Blog Contributors Archive Categories

Badging & Certification

IBM is building the future of 'New Collar' jobs with digital badges – published in Evollution

4 December 2018 | Written by: David Leaser

Categorized: Articles older than 1 year | Badging & Certification

Share this post:

in

Excepted from The Evollution, a go-to source for opinions and information on non-traditional higher education for more than 50,000 monthly visitors. The interview discusses the value proposition for New Collar and digital badges and provides specific examples on how IBM is leading in this area. In this interview, David Leaser and Rachel Akers discuss how the shift towards New Collar jobs is revolutionizing the tech industry, and explain how IBM's commitment to digital badging is expanding opportunity for job seekers in this high-growth field. Full article is [here](#).

Follow the conversation

Blog RSS feeds

 Blog post feed

 Comment feed

FEEDBACK

3.0では、
実装自由度が高まりました

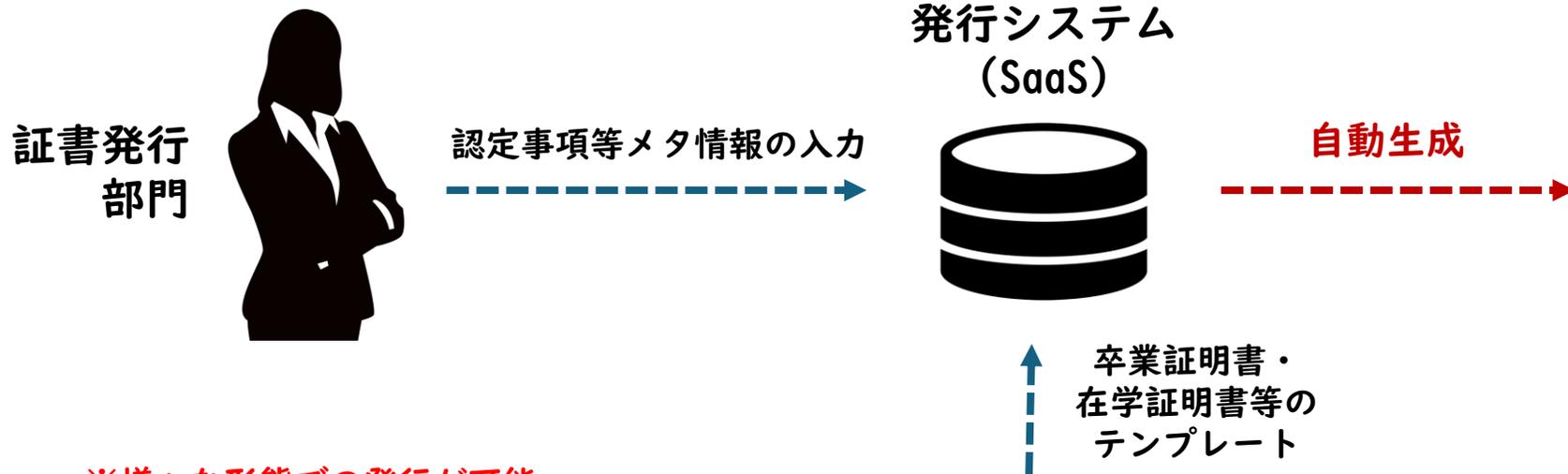


一般財団法人

オープンバッジ・ネットワーク

独自デザインの証明書が発行できます! (オプション)

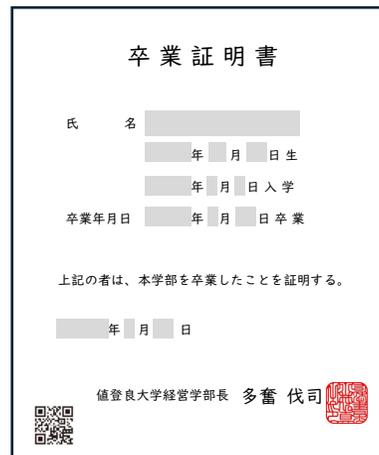
作成の手間軽減と信頼性の高い情報で構成された証明書が発行でき、学生はバッジと同じウォレットで管理できます。



改ざん不能、なりすまし不能で、本物証明可能な認定証を発行



※様々な形態での発行が可能



印刷可能



紙で提出

QRコードで本物確認



電子データ
で提出

デジタル学生証も発行できます！（オプション）

モバイルファーストで利便性向上とセキュリティ強化を実現。即時発行だけでなく失効・無効化も可能です。



主な記載事項

氏名、氏名カナ、氏名英文、所属、学籍番号、顔写真、有効期限、生年月日、発行日（入学日）、QRコード（真正性確認用）、等

デジタル学生証の利点

- 発行コストの削減
- 発行事務の簡略化（一括発行、逐次発行）
- 即時失効・無効化
- 複製防止（なりすまし等の悪用回避）

さいごに



一般財団法人

オープンバッジ・ネットワーク

オープンバッジに期待すること

“自ら学びの機会を獲得し、人との関係を大切に繋がり成長し合う”

“個性あふれるウォレットが、就職活動や卒業生の社会人生活の中で、
武器のひとつになることを心から願っております。”



成城大学 教授 小宮路 正博